

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

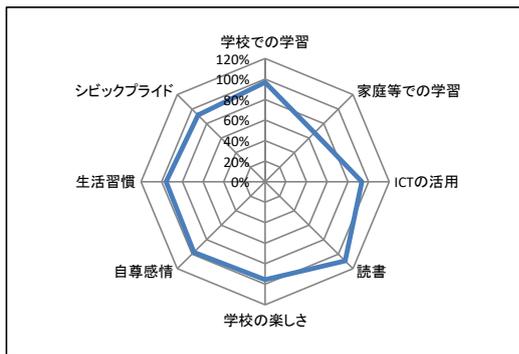
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」「書くこと」の正答率が高く、目的に応じて必要な情報を読み取ったり、条件に合わせて書くことができています。一方で、言葉の特徴や使い方に関する事項についての正答率が低くなっています。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	時間的な順序や事例の順序などを考えながら内容の大体を捉えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」「測定」「図形」の基本的な技能については正答率が高い。一方で、記述式で、必要な数量を見だし数や式を用いて説明するような問題の正答率が低く、無回答率も高くなっています。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見だすことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断しその理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギー」を柱とする領域についての正答率が高い。一方で、「生命」を柱とする領域の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	電流がつくる磁力について電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身についているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<p>○自尊感情の項目では、自分には良いところがあり、周りの人たちも認めてくれていると感じている子が多い。また、人の役に立ちたいと考えている子も多い。学校でも様々な活動の中で、それぞれの得意分野を生かしながら活動する姿や上級生として責任を果たそうとする姿が見られる。</p> <p>○学習面では、課題の解決に向けて積極的に取り組んだり、これまでに学んだことを生かしながら学習していると答えた児童が多い。また、読書習慣についても身につけている児童が多い。</p> <p>○家庭学習への計画的な取組や取り組む時間の数値が低い。改善していくための取り組みを継続していく必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 各学年、各教科で「書くこと」や「話し合い活動」を授業の中に位置づける。根拠となる資料を提示しながら自分の考えを書いたり、わかりやすく述べたり、友達の意見と比べながら聞いたりする活動に取り組む。
- データの処理や活用については算数科だけでなく、理科や社会科、総合的な学習の時間などでも学年に応じて継続した指導を行う。
- ICTの活用に関しては、各教科において積極的、効果的な活用に取り組む。また、そのための職員研修を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習については、家庭の協力も必要なので、保護者に向けて習慣化するための具体例を示し協力を得るようにする。（例：家庭学習の時間の目安は学年×10分、保護者の接し方、良い学習の取り組みの紹介など）また、学校の方策として、学級全体での共通の宿題のほかに個に応じた内容の課題に取り組ませるなどの工夫をしていく。
- 挨拶・早寝早起き朝ごはん・規範意識の育成など、学校での取り組みを継続していくとともに、学校だよりなどを通じて家庭や地域に啓発を継続して行う。
- スマートフォンや携帯電話、タブレット等の使用時間や適切な使い方については校内で指導を続けるとともに、家庭への啓発も行っていく。